

■割箸の現状について

●日本

日本で使われている割り箸の**98.2%**は輸入品で、そのほとんどが中華人民共和国（中国）からのものです。日本国内での割り箸の年間消費量は約**258.8**億膳にのぼり、一人当たりの年間消費量は約**200**膳という計算になります。

●中国

輸入品の多くは、割り箸を製造するために伐採した材木を用いており、特に中国では、輸出向けの割り箸製造が増えるにつれて、自国内でも消費が増え、伐採(皆伐)が進む傾向にあります。そこで中国では2006年11月より資源保護政策の一環として輸出関税10%が付加されるようになりました。

●韓国

韓国でも同じく自国の文化保護とCO₂排出量の抑制を目的として、割り箸に多額の税金を課しています。そのため、多くの飲食店が鉄箸を洗って繰り返しているのが現状です。

●ゴミ量

日本国内で使用される258.8億膳の割り箸は材木量にすると、標準的な2階建て木造住宅約**2万**棟分に相当します。

●人体への影響

輸入割り箸には二酸化硫黄、漂白剤、防カビ剤、防腐剤が多く残留しているものがあり、人体への影響についても「厚生労働省」が監視しています。



金魚(4匹)が泳ぐ水槽に中国産の割り箸(15膳)を沈めた実験では金魚は7日後に4匹とも死滅。

「楽しい株式会社」のカタログより

●国産材の割り箸

建材や樽材をとった後にあまる端材や、健全な森林の育成にかかせない間伐材を利用した国産の割り箸もありますが、自給率は2%程度で流通していません。



国産の割り箸は表示があることが多く、海外産と区別が可能です。